

テーマ：景気動向指数（09年12月）の予測

発表日：2010年2月2日（火）

～一致C I、先行C Iとも改善傾向が続く～

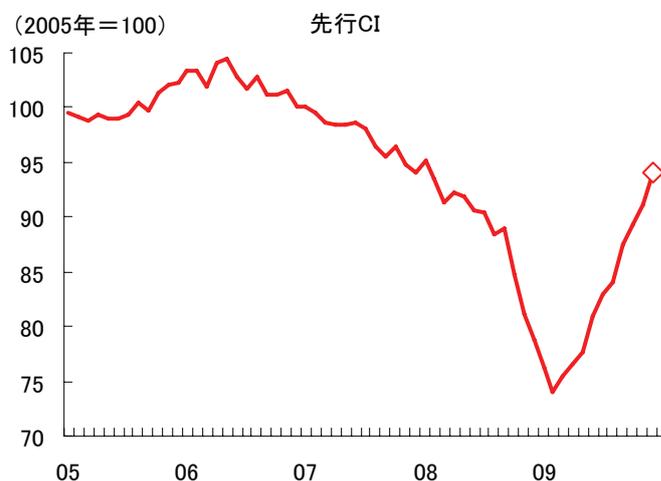
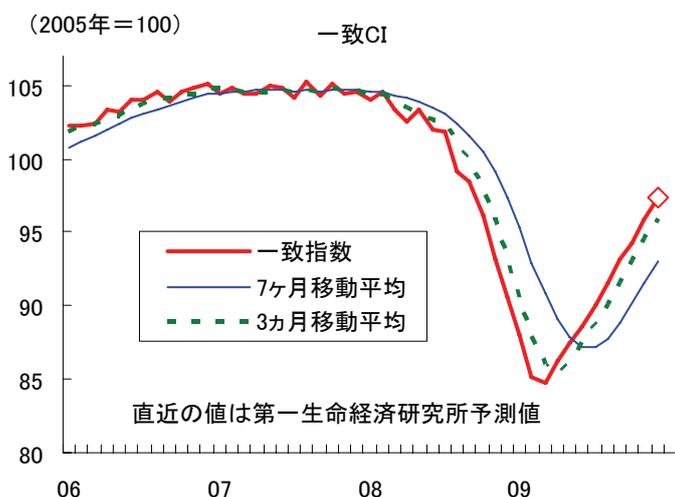
第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## ○ 一致、先行とも改善傾向が続く

内閣府から2月5日に公表される09年12月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.5ポイントと、9ヶ月連続の上昇が予想される。輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムとして上昇しており、景気回復が持続していることが示される見込みだ。内訳では、大口電力使用量のみマイナスに寄与するが、その他の系列はすべてプラスに寄与するとみられる。また、C I先行指数も前月差+2.9ポイントと、10ヶ月連続の上昇を予想する。D Iについては、一致D Iが100%、先行D Iが80.0%が予想される。一致D Iは3ヶ月連続の100%となる見込みだ。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、「改善を示している」が維持される可能性が高い。内閣府の定義によれば、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」とされている。一致C Iからも、景気回復局面の継続が確認されるだろう。

景気の高谷の判定はヒストリカルD Iを用いて行うため、C Iの基調判断と景気局面が直接対応するわけではないが、過去の景気の高谷とC Iの高谷はかなり連動している。実際にヒストリカルD Iを計算すると、景気の高谷は09年3月となり、一致C Iのボトムの時期と一致する。最終的な認定はまだ先のことになるが、事後的に見て09年3月が景気の高谷だったと判定されることになるだろう。



(出所) 内閣府「景気動向指数」

※直近の値は第一生命経済研究所予測値